# 玉川浄水場を復活させよう！

## 玉川浄水場・水道水復活のメリット

**貴重な東京の自己水源**

他県に水源を求めることは、ダム開発等の環境破壊につながっていきます。多摩川中流部を復活させ、自己水源として利用していくことは、自然環境を守り、循環型都市社会を実現するために意義あることです。

**リスク分散（地域・水系）**

東京南部には水道水の浄水場が少ないので、災害対策の上からも南部に浄水場があることは重要な意味があります。また、多摩川水系の活用は、利根川水系（東京都の水源の 80%を占める）での水質事故時に給水停止のリスクを減らすことになります。

**環境再生のシンボル**

多摩川が再生し、玉川浄水場が水道水の浄水場として復活することは、東京の環境再生のシンボルとなります。多摩川流域のほとんどが東京都の管理にあるからこそ連携して様々な取り組みができます。

**工業用水浄水場から上水浄水場へ**

1970 年 9 月、水質悪化とカシンベック病の疑い（後に否定されました）で、玉川浄水場は水道原水としての取水をやめ、その後工業用水の浄水場として取水されています。現在は河川水質が良くなり、もう少しで水道水浄水場として復活できそうです。しかし、工業用水需要激減のため、浄水場そのものの維持が難しくなってきています。

今一歩で水道水浄水場として再開できる玉川浄水場をつぶしてしまっては、東京都が自らの貴重な財産を放棄することとなってしまいます。みんなで玉川浄水場を水道水浄水場として復活させましょう。

## 復活への提言

**基本は河川浄化**

1993 年に都が明らかにしている玉川浄水場の水道水復活条件は「① 取水域の水質が環境基準 B 類型を満足する。② 下水処理水混合率の高い原水の浄水処理方法を確立する。③ 再開について都民の合意が得られる。」です。このうち① B 類型は達成され、② 水道局の高度処理実験で実用化可能となり、③ 都民合意形成は進んでいない、というのが現状です。私たちは「多摩川がきれいになっており、東京の他浄水場並みに高度処理することで水道水復活は可能」と考えています。さらに多摩川の河川水質が改善すれば、通常の浄水処理でも対応できるはずです。

**みんなの力で復活を**

多摩川がきれいになっていること、処理技術が進んだことを知って、玉川浄水場の水道水復活を東京都に働きかけていきましょう。多摩川を安心して泳げる川、おいしいアユがすむ川にしましょう。

「多摩川を飲める水にする会」は、多摩川と親しみながら、また、流域の様々な調査を通じて流域住民相互の交流を図りつつ、多摩川の保全、水質改善、多摩川を飲める水にするためのプランをつくっていくことを目的に、1991 年 9 月 28 日（取水停止から 21 年後の同じ日）に発足しました。毎年、「多摩川クリーン＆ウォッチング」を開催し、多摩川河川敷のゴミ回収と水質調査、浄水場や下水処理場の見学、学習会を行っています。

**多摩川を飲める水にする会**
Tel:03-5211-5429　fax: 03-5211-5538
HP: www7b.biglobe.ne.jp/~yakkun/tamagawa/tamagawa.htm

2010 年 9 月 25 日発行　2000 部

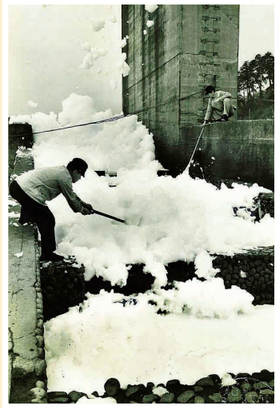
# 多摩川の水を飲める水に！

多摩川上流の水は、とてもきれいです。下流の水も改善しました。でも、まだ課題が…

上流部・青梅市

中流部・府中市・大丸用水堰

下流部・大田区・田園調布堰



【昔の田園調布堰】
1960 年代の高度経済成長に伴う工場・家庭排水の増加により、多摩川の水質は悪化し、田園調布堰は洗剤の泡でいっぱいになるほど汚染が進みました。1970 年9月に、都水道局は田園調布堰からの取水を停止しました。現在、工業用水を取水していますが、水道用水には利用していません。

多摩川の水源は山梨県甲州市（旧塩山市）。笠取山（標高 1953 m）から、小菅川や多くの支流を合わせて奥多摩湖に注ぎ、東京都の西部から南部を流下し、神奈川県との都県境を流れ、東京湾に注いでいます。幹川流路延長 138km、流域面積 1240km²の一級河川。流域面積に占める東京都分は約 1000km²。大部分が東京都です。また、東京都の面積 2187km²の約 45%が多摩川流域です。

多摩川河口部の干潟

# どうなっているの？多摩川

臭いアユなんてゴメンだ。
多摩川をもっと
きれいにしてほしいなあ…
稚魚の時は東京湾で生活するから
海もきれいに!

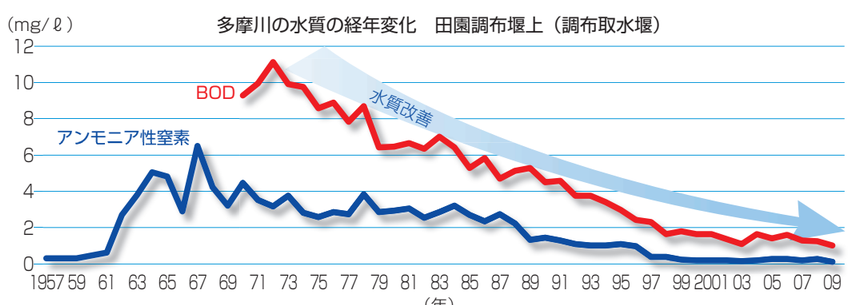
# 多摩川
# 中流部の今昔

● 1950 年代までは多摩川の水質は良好で、水産資源として多くの魚類がとれたほか、川遊びや水浴場としても親しまれていました。

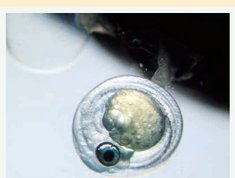
● 1960 年代の高度経済成長に伴う工場・家庭排水の増加により、多摩川の水質は悪化し、田園調布堰は洗剤の泡でいっぱいになるほど汚染が進みました。1970 年 9 月には、都水道局は田園調布堰からの取水を停止しました。

●その後、下水道が整備に伴い、水質はだんだん良くなりました。現在は、アユがたくさん遡上するようになり、水辺遊びが各所で行われるようになりました。流域下水処理場では今までの処理よりさらに良い水に再生する高度処理が導入されています。整備が進むにつれて河川水質も改善しています。

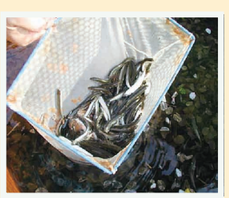
●ただ、中流部ではまだ安心して泳げる水質になったとは言えません。アユの匂いも良くありません。現在の玉川浄水場は工業用水として多摩川の水を取水していますが、水道用水としての取水は行われていません。今一歩の改善策が必要です。




出典：東京都水道局、環境局の資料から作成



アユの卵。秋季に多摩川中流部で産卵します。＊



田園調布堰で採取された遡上アユ。＊

＊アユの写真、グラフの出典：東京都島しょ農林水産総合センター

# 多摩川をもっときれいにしよう

**おいしいアユがとれ、**
**楽しく泳げる多摩川にしましょう。**

## 水量の確保

●豊かな川であるためには水量がなくてはなりません。流域の都市化によって地下水の浸透量が少なくなっているため、多摩川中流部の流量は渇水期にはとても少なくなります。そのため、1997 年から河川維持用水として 2 トン／秒の水量が羽村堰の下流に放流されています。

●屋根雨水の地下浸透、雨水地下浸透式の道路舗装などで、地下水や湧水を増やし、渇水期でも河川水量を保持していくことが大切です。

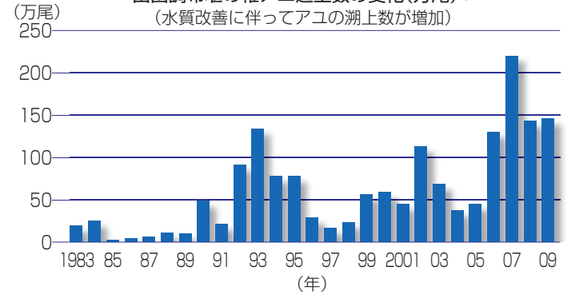
## 下水処理水質の向上

●中流部では下水処理水が河川流量の半分近くを占めています。下水処理水がさらに良くなれば、河川水質は格段に向上します。下水の有機物や栄養塩、臭いを取る処理方法等が開発されおり、実用化されています。この方式をもっと拡大していけば、多摩川の水質は改善します。

●「合流式下水道」では、大雨の時に汚水混じりの雨水やゴミが下水道から川へ流出し水質の悪化を招くことがあります。そのための対策は少しずつ進んでいますが、今後さらに改善対策の加速化が必要です。

## 行政への働きかけ

●こうした水質の向上や水量の確保のためには行政の努力が必要です。東京都や川崎市などの行政管理下にある施策を総合的に管理し、向上させていけば、多摩川はもっと良くなります。関係各局に働きかけをしていきましょう。



東京湾で生育するアユの稚魚。多摩川河口部やお台場で採取されています。＊